担い手の育成と確保に向けた群馬県建設業協会の取り組み

一般社団法人群馬県建設業協会
専務理事　田村（たむら）　孝夫（たかお）

1　はじめに

建設業は，ものづくり産業であり，個々の建設企業は，ものづくりを担う人材を確保・育成して時間をかけて１歩１歩階段を登るようにして成長してきた。

しかし，建設市場の縮小とともに受注競争が激化し，建設企業の倒産やリストラが激しくなり，激しく増減する受注量に対応する即戦力のある人材が求められ，いつの間にか建設業は担い手育成が不得手な産業になってしまった。

建設従事者の高齢化が年々進む中で，若年者の入職を図り技術継承を急ぐ必要性が痛感されてきたが，建設業は典型的な受注産業であり，建設需要が安定しないと個々の建設企業は新たに担い手を確保して育成することが難しくなっている。

このため，担い手三法への期待は高く，なによりも安定した建設需要の先の見通しがつくことが望まれている。

こうした状況を受けて群馬県建設業協会では，担い手対策は待ったなしとして諸事業に取り組んでいるが，主なものを紹介したい。

2　会員企業を対象としたアンケート調査

待ったなしの状況は，会員企業を対象としたアンケート調査結果に色濃く表れている。

主なアンケート調査結果を抜粋すると次のとおりである。

⑴「土木施工管理技士に関するアンケート調査」平成24年７月

①　目　的

・会員企業で従事する土木施工管理技士に注目し，資格者数や採用形態，必要人員の過不足等を調査した。

②　結　果

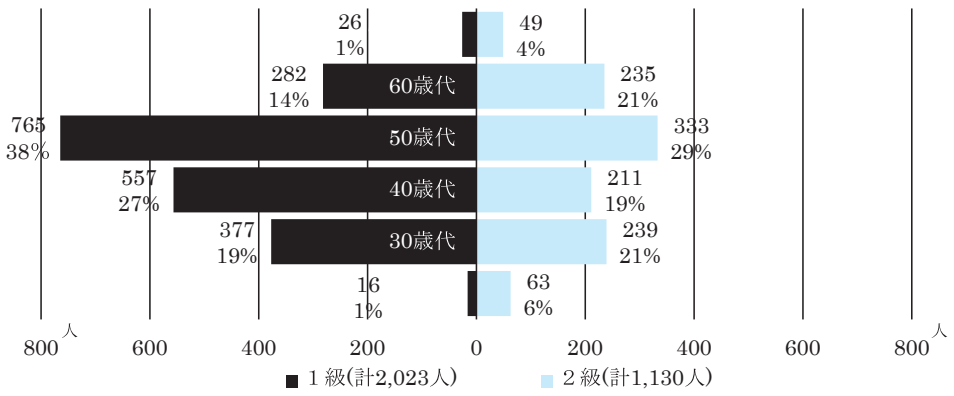
・技術者の年齢層は50歳代が最も多く，技術者の過半数が50歳以上であった。

・61％の会員企業が技術者不足と答え，有資格者の中途採用，新卒を採用して育成するにもさまざまな課題が寄せられた。

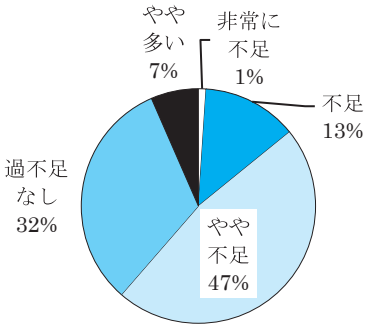
建設業の担い手対策は，建設業者のほかさまざまな機関が熱心な取り組みをしている。

平成25年４月には，国土交通省から公共工事設計労務単価の引き上げが発表され速やかな普及が求められた。

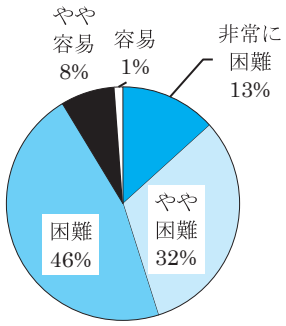
建設業界では，建設業界が若年者の入職を増やすためには公共工事の設計労務単価の引き上げが



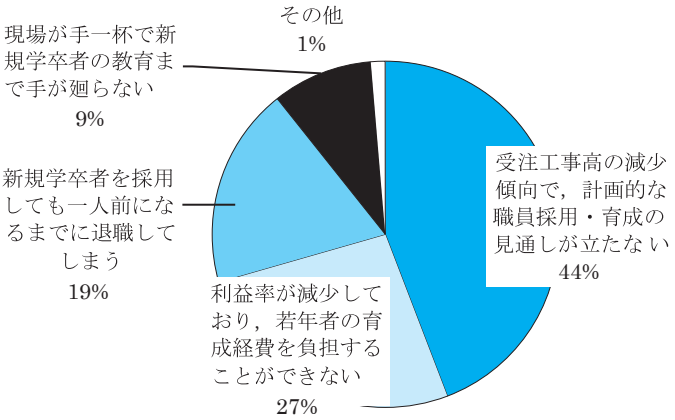
図―1　年齢層別技術者数



図―2　技術者不足



図―3　技術者の中途採用



図―4　新卒者を土木施工管理技士に育成する際の課題

不可欠であると長い間要望を続けてきた。こうした要望を受けて，平成25年３月19日，群馬県議会は，内閣総理大臣や国土交通大臣等関係方面に対して地方自治法第99条の規定により「公共工事設計労務単価等の改善に関する意見書」を提出したところである。

⑵「公共工事設計労務単価の引き上げ等に関するアンケート調査」平成25年７月

①　目　的

４月に引き上げられた公共工事の設計労務単価の波及や職員の新規採用・育成の問題点を調査した。

②　結　果

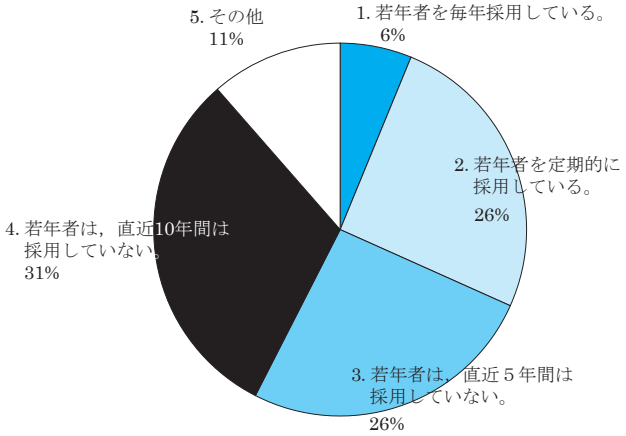
・引き上げは歓迎するものの，新単価で積算された工事の発注は，夏過ぎになるため波及には時間がかかる。

・実際の労務単価の決定にはいろいろな要素が関係している。

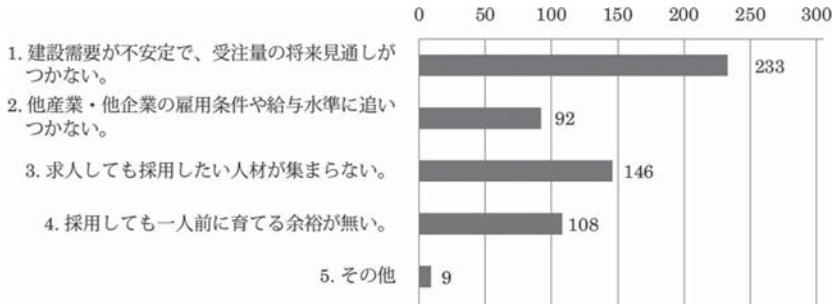
・若年者（24歳以下）に関しては毎年採用している企業は６％にとどまり，直近５年間に採用なしが26％，直近10年間に採用なしが31％に達していた。

平成26年１月，政府が外国人技能実習制度を改正して外国人労働者の拡大策を検討していることが報道された。

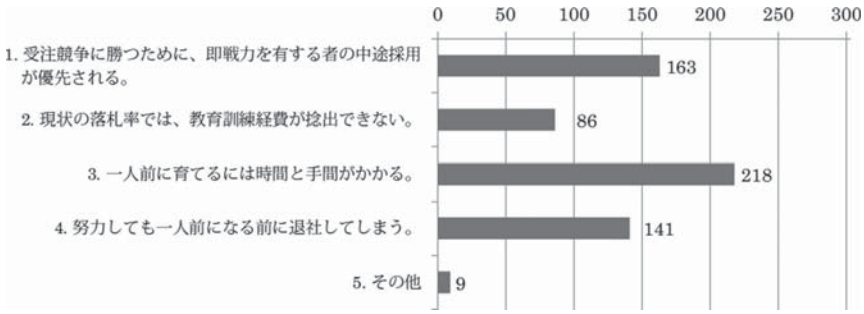
この拡大策をきっかけに建設業の担い手対策を



図―５　若年者（24歳以下）の採用状況



図―６　採用するための問題点（複数回答）



図―７　育成する際の問題点（複数回答）

考えるためアンケート調査を実施した。

⑶「外国人材（外国人労働者）活用等に関するアンケート調査」平成26年３月

①　目　的

国の外国人労働者の受け入れ拡大策の賛否とともに若年者の採用・育成の問題点等について調査した。

②　結　果

・外国人材活用拡大策の賛否に対してはどちらでもないが45％，賛成が33％，反対が17％だった。

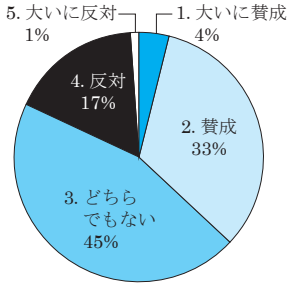
・外国人材の直接雇用する考えは，ないが69％，あるが14％だった。

・若年者の採用・育成については，さまざまな問題点が回答された。

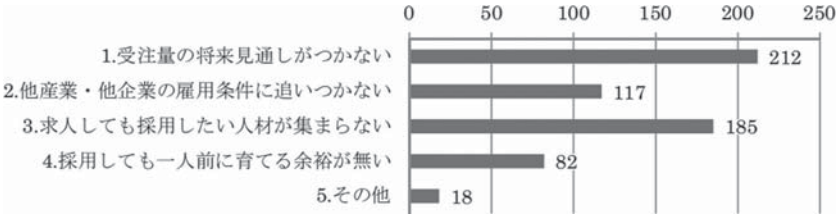
・国に対しては，公共事業予算の確保，発注量の長期安定化を望む声が最も多かった。

群馬県建設業協会が実施するアンケート調査は，調査結果と提言・要望を報告書にとりまとめて記者会見で発表し，国や県の関係機関に送付している。

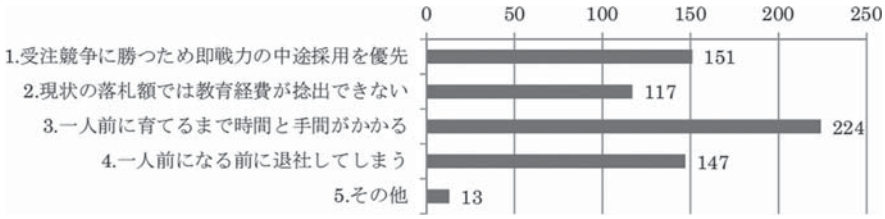
建設産業や建設現場の実情を表すデータとして，また自由意見は，建設現場の生の声として受けとめられさまざまな機関で参考にしていただい



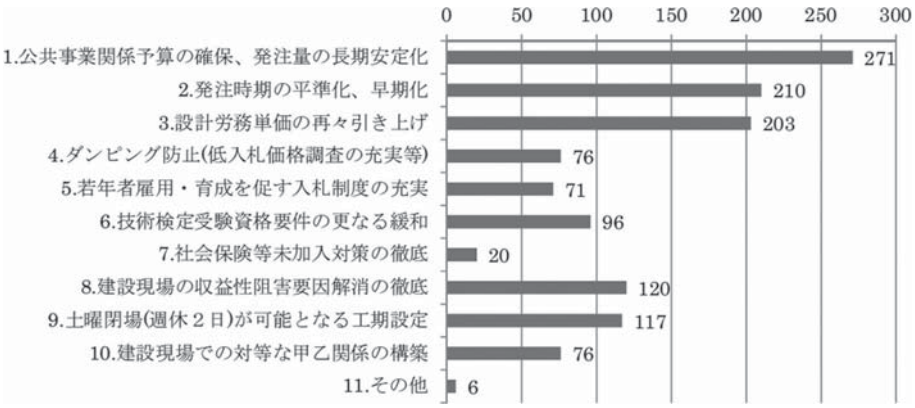
図―8　国が検討している建設業への外国人材活用拡大策について



図―9　若年者を採用する際の問題点（三つ以内の選択）



図―10　採用した若年者を一人前の技術者・技能者に育成する際の問題点（三つ以内の選択）



図―11　国土交通省では，建設産業の担い手を確保・育成するため，さまざまな施策を推進しているが，どんな施策がより重要だと考えるか（五つ以内の選択）

表―1　県内建設系８高校卒業生の平成24年度求人・就職状況

	卒業生	求人数	求人社数（社）		就職状況	
			県内	県外	県内	県外
全体	1,595	3,535	1,425	1,678	656	75
土木・建設系	345	525	185	282	県内外計103	

ていることに感謝している。

【参考データ】

群馬県内には，土木，建築等建設系のコースを有する高等学校が８校あるが，建設系コースの卒業生の進路は，表―1のとおりであり，建設業への就職は少ない状況が続いている。

3 県や教育機関と連携した取り組み

建設業者は，雇用主として建設業の担い手は受け入れるが，担い手対策を進めるには学生を送り出す高等学校や大学，建設産業の振興を担当する県の協力や連携は欠かせない。

(1) 産学官連携会議

平成25年８月１日，群馬県は，建設産業への若者の入職者増や定着率向上のための施策を産学官で話し合う「産学官連携会議」を常設会議として設置した。この会議に群馬県建設業協会も参加している。

① 構　成

・産業界：群馬県建設業協会，群馬県測量設計業協会

・学　界：群馬大学，前橋工科大学，群馬高専，工業高校，農業高校，土木学会

・官　界：群馬県（県土整備部，教育委員会），群馬県建設技術センター

② 開催状況

・平成25年８月１日　ワーキング４回

・平成26年６月19日　ワーキング３回（予定）

③ 主な取り組み（群馬県建設業協会に関連する事業を抜粋）

1) 効果的なインターンシッププログラムの作成

従来は，２年生等を対象に受け入れ企業の状況により実施していたインターンシップだが，産学官で協力して高校３年間を通じ学年に応じた段階的なインターンシッププログラムに改善する。

・１年生：現場見学会，重機操作体験

・２年生：長期（５日～８日）現場実習，希望者に小型クレーン講習会

・３年生：希望者に就業体験（デュアルシステム），希望校で２級土木施工管理技士対策授業を開講

（1，２年次は今年度より実施，３年次は来年度より試行開始）

2) 会員企業の求人情報を公開

建設業協会ホームページで会員企業の求人の有無を一覧表で公開，詳しい内容は当該社に照会する仕組み。

3) 資格取得

○２級土木施工管理技士試験受験対策講座

・希望する高校で受験対策講座を開講（再掲）

・平成25年度は勢多農林高校で試行，合格率70％に上昇

・平成26年度は県内建設系６校で実施（継続予定）

○クレーン運転免許講習

・２年生を対象に，希望者を対象にインターンシッププログラム（1)）に位置付けて実施（経費の１/２は自己負担）。

○１級土木施工管理技士試験受験対策講座

・社会人（会員企業の従業員）の希望者を対象に，県内２会場で開催

・３～６月　学科試験対策講座

・７～10月　実地試験対策講座，実地試験については添削指導

・今年度は約50名が受講

4) 建設系高校生に対する説明会

群馬県，建設業協会および測量設計業協会の講師が，県内建設系７高校に出向き，卒業後の進路を検討している２年生およびその保護者に対して建設業の実情や仕事の魅力を説明。

5) 建設業紹介冊子

群馬県建設業協会では，説明会に合わせて新たに冊子を作成した。

○「土木技術者ってどんな仕事？～土木工事の概要と魅力～」

実在するH君（平成12年３月高校卒業）が建設会社へ入社してからのキャリアアップと１日の仕事を紹介（平成26年２月2,000部作成）。

・土木技術者が身近なものとして仕事が分かりやすく理解できたと好評。

○「地方の建設業ってこんなに変わりだしたん

だ!!」

・土木技術者ってどんな仕事？の改訂版として，国土強靱化法や担い手三法，１級土木施工管理技士の受験資格要件緩和の動きや群馬県建設業協会の取り組み概要を追加（平成26年７月5,000部作成）。

・県内ハローワーク窓口でも配付された。

4 建設業に対する岩盤のように固いイメージを突破する試み

「東日本大震災の被災の最前線で自らの危険を省みずに大活躍した地元の建設業，群馬県でも昨年２月の歴史的大雪には昼夜兼行で除雪に努力してあんなに感謝された建設業なのに……」

「災害から県民，国民の生命，財産を守り，暮らしの豊かさや産業活動の基盤である社会資本整備の一翼を担い，仕事の中でものづくりの喜びが得られるのに……」

「建設業の担い手対策は待ったなしなのに……」

「求人を出しても反応が鈍い」

こうした状況を打開するには，建設業に対する岩盤のように固いイメージを打破する必要がある。

群馬県建設業協会では，こうした決意を固めた青柳会長のリーダーシップのもとに，積極的な取り組みを展開している。

具体的には，協会の行事はその都度マスコミにお知らせし，アンケート調査結果については，群馬県庁の記者クラブ等で記者会見を行い，一般県民が目にするマスコミに掲載していただく努力を重ねている。

平成26年度は，女性，若者，IT，環境の四つのキーワードから協会事業を発信する「４つ葉のクローバー 2014 ～地域建設業の魅力を再発見～」を発表し，協会の特徴的な取り組みを発信している（図―12）。

その中から担い手対策を視野に入れた二つの取り組みを紹介する。

図―12 「４つ葉のクローバー 2014 ～地域建設業の魅力を再発見～！」

(1) 環境すみずみパトロール隊（写真―１）

この取り組みは，平成25年１月，「品質の向上は安全から，安全は環境の改善から」をスローガンとして沼田支部で発足。現在は全支部に拡大して隊員数は100人を超える。各隊は，会員企業の女性社員で組織され，女性の目線から工事現場の①整理，②整頓，③清掃，④清潔，⑤しつけの５S活動を随時実施。現場パトロール後は，工事現場には点検済みシールを貼付し，点検の効果を持続させている。

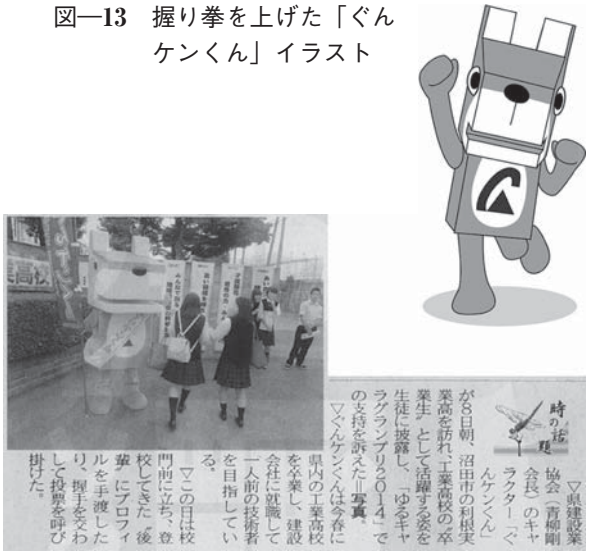
建設業の事故防止がスタートだが，典型的な男社会と見られている建設業界で100人を超える女性の活動は，女性が建設現場を変えていくとしてマスコミにも注目され建設業のイメージアップや若者を呼び込む突破口としての期待も大きい。

(2) ぐんケンくん

作成の目的は，公共工事の真の発注者である県民の皆様に，社会資本整備の必要性や建設業の役割を理解していただくために，まず建設業に関心を持っていただくこと。

写真―1　環境すみずみパトロール風景（26年度パンフレットから）沼田支部，太田支部，桐生支部，高崎支部

図―13　握り拳を上げた「ぐんケンくん」イラスト



写真―2　上毛新聞　26年9月9日記事

いくつもの案が青年経営者部会，常任理事会で議論され，マスコットキャラクターぐんケンくんが誕生した。イラストとともに，ぐんケン体操，イメージソング「のびろぐんケンくん」が完成。5月の総会デビューに合わせて着ぐるみも完成し，当日は，「ぐんまちゃん」のエスコートでデビューを果たした（図―13，写真―2）。

9月のゆるキャラグランプリ2014にも参戦し，建設業界のゆるキャラとして多くの皆様の声援を受けて企業部門17位と健闘した。

ぐんケンくんは，幹線道路の開通式典や青年経営者部会の幼稚園の砂の入れ替え行事など県内各地に出張し，ファンを増やしている。

4　まとめ

2年前の政権交代以後，建設業の担い手対策が構造的な問題として認識され，国や県でさまざまな施策が具体化しています。建設業者も担い手対策を真剣に考え具体的な行動に出ています。しかし，人の採用は，一時的なものでなく雇用主として人の一生に責任を持つ覚悟が必要であり慎重にならざるを得ません。

動き出した良い動きを止めないように建設投資の下げ止まり，中長期的に受注量に見通しがつくことを切に希望するものです。